

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 7	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Into the world of illegal drug use: Exposure opportunity and other mechanisms linking the use of alcohol, tobacco, marijuana, and cocaine 不法な薬物使用の世界へ：曝露機会とアルコール、タバコ、マリファナ、コカイン使用に関連した機序	
執筆者 Fernando A Wagner, James C Anthony	
掲載誌 (番号又は発行年月日) American Journal of Epidemiology 155:918-25, 2002.	
キーワード 思春期行動、飲酒、コカイン、マリファナ喫煙、心理学、喫煙、社会環境、街角薬物	
要 旨 <p>Wade Hampton Frost は曝露機会という概念を作り出した。著者らは、アルコール、タバコ、マリファナ、コカイン使用と関連した「踏み石」理論あるいは「入り口」連鎖理論という既存の観察理論で、不法な薬物使用に陥ることが説明できるかどうかを検討した。分析対象としたデータは、アメリカの4つの独立した家庭調査の対象者で、アメリカ国民を代表するものであり、12-25歳の44,625人の断面調査である。データは標準化した方法で調査されたものであり、自記式調査方法によった。分析は、生存分析法によった。その結果、喫煙習慣と飲酒習慣のある人は、それがない人に比較して、マリファナ使用経験のある人が多かった。また、マリファナ使用経験のある人は、実際にその日常的な使用に陥ることが多かった。コカイン使用経験に陥る人は、その前にマリファナ喫煙者であることが多かった。若年者のコカイン使用経験者においては、マリファナ使用経験者において、そうでない人よりもコカインを使用する危険性が高かった。これらの観察結果から、若年者が薬物を単独に求める機会の上昇により薬物使用が起こるとは考えられなかった。ここで著者らは、Frost の曝露機会の概念を疫学的に適用して、早期のアルコール飲用や喫煙が、後の不法な薬物使用につながるという連鎖の新しい疫学事実を提示した。</p>	